

* 乗鞍コロナ観測所 10周年(1959年)に配布された記念品の続編

アーカイブ室新聞 180号に乗鞍コロナ観測所 10周年の記念品の記事を書いた。これを見た元乗鞍コロナ観測所長だった日江井先生から、この記念品は元乗鞍コロナ観測所員だった森下博三氏のデザインだと教えられた。森下博三氏は「かもしか仙人」と呼ばれた人であった。天文月報 1949年 1、2月号の千場達氏の「乗鞍観測紀行(2)」にはまだ測候所にお勤めであった森下氏について、「乗鞍については何一つ知らない事はないといわれた山の仙人森下さんから、山についてのお話をお伺いして、夜の更けるのも忘れた」と書かれている。氏の存在がなかったら乗鞍コロナ観測所が実現したどうかと言われたほどの人であった。氏は1925年生まれで1997年に他界された。乗鞍コロナ観測所勤務は1949年(昭和24年)10月31日～1986年(昭和61年)3月31日である。この間、乗鞍コロナ観測所滞在は1813日に及んでいる。「かもしか仙人」と呼ばれた屈強な御仁であったが71歳の若さで結腸癌のため逝去された。写真1が天文月報1997年10月号に掲載された追悼文に載せられた森下氏の写真である。また、アーカイブ室新聞180号を読んだ読者から、厳しい冬の乗鞍コロナ観測所ドームが氷付けになった写真2を送られてきた。



写真1 森下氏



写真2 氷付けのコロナ観測所のドーム

乗鞍コロナ観測所 10周年の記念品についての記事を書くなら、「かもしか仙人、森下氏」に触れないではなるまい。東京天文台在職中は、誰もが「仙人」と呼ばれ、誰からも親しまれたが、古武士のような気概をもった信義厚い人とも言われていた。筆者には東京天文台で汚職事件があった際、氏が一端の責任を感じられたか、頭を丸め坊主頭になった姿が印象的であった。

厳しい冬の乗鞍コロナ観測所の様子が、乗鞍コロナ観測所50年のあゆみ（写真集）に紹介されている。その写真をいくつか紹介しておく。写真3は記念品のモデルのドームの雪氷お年の作業風景、写真4はそのアップ写真である。



写真3 雪氷落とし作業



写真4 雪氷落とし作業